

たなばた おうせ たけ き
七夕は逢瀬の丈を聞こし召せ

そな
星降る空に 若竹供ふ

令和四年七月五日

大中臣正比呂



お隣の農家の奥さんが竹林から声を掛けてくれた。筍たけのこを食べませんかと言う。

利鎌とがまで数本、スパッと切ってくれた筍は地上から一メートルに育った若竹だ。

面倒なアク抜きなどしないから、多少の苦みにがはあるが、甘みもあって美味しい。

直径三、四センチぐらいの輪切りは十分柔らかく、煮付けでも油炒めでも、

キンピラにしても良い。そうか、「タケノコ掘り」でなくても食せるのだ。

もうすぐ貴女との七夕が来る。夏の夜空にお供えしておこう。